Be The Inspiration

Rotary International District 2760　インスピレーションになろう

1
2019 JAN

2018-19 ガバナー月信

あなたの街でロータリーを！
あなたの街からロータリーを！

CONTENTS

2 …… 表紙のおはなし
3 …… ガバナー便り
5 …… ガバナーエレクト　新年のご挨拶
6 …… ガバナーノミニー　新年のご挨拶
7・9 … ろーたりーぱっちわーく
11 …… 新着ニュース 他

インスピレーションになろう

表紙のおはなし

写真提供：
熊澤　岌　ガバナー補佐（東知多RC）

「あいち健康の森」

「あいち健康の森」は、大府市と東浦町にまたがる丘陵地に整備された、保健・医療・福祉・生きがいを推進することを目指した県立の総合施設。約100haの敷地に「あいち健康の森公園」と「あいち健康プラザ」により構成されています。

「於大公園」

徳川家康公の生母の名に因んだ「於大公園（おだいこうえん）」は、その於大の方の菩提寺「乾坤院（けんこんいん）」東隣の自然地形を生かして作られた公園です。面積12.1ヘクタール、外周散策コース約1.4キロメートル、四季折々の緑や花が溢れ、野鳥や昆虫も多く集まる自然豊かな環境が特徴です。

国際ロータリー 第2760地区
ロータリークラブ会員の皆様へ

新年あけましておめでとうございます。お健やかに初春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

早いもので私のガバナー年度も前半期を終了し、新年とともに後半期に入りました。振り返れば、２０１８年は今年の漢字で『災』が選ばれるほど、災害の多い年でした。７月からでも、西日本の豪雨水害や大型台風の相次ぐ上陸、そして北海道胆振東地方の地震など、自然の驚異にさらされた年でした。しかしその時々において会員の皆様からの義捐金をいただき、被災地にお届けいたしました。改めてご協力ご厚情に感謝申し上げます。

前半の主な行事としては、ガバナー公式訪問、ＷＦＦ，地区大会をはじめ、様々な事業を行ってまいりました。あっという間の半年ではありましたが、大変充実した毎日でした。

後半期は各分区でのＩＭの開催、周年を迎えられるクラブの記念行事、などのほか、地区の各委員会も多くの事業計画が推進されます。６月にはドイツ国ハンブルク市で国際大会が開催されるので、当地区より１５０名以上の登録者数を達成し、ガバナーナイトも楽しく開催したいと願っております。

さて、後半期を臨むにあたり『やりたいこと』と『やるべきこと』を考えて行かねばと思っております。残り半年だからと言って、急にガバナーの思い付きのような行事や事業の追加は控えたいと思っております。やりたいことは、７月発表の事業計画に盛り込んでありますので、よほど世情の変化がない限り、粛々と活動方針の達成に邁進したいと思っております。

特に後半期は、『やるべきこと』として奉仕の理念を学ぶのは例会であるので他クラブの例会に出てよいところを学ぼう、そして分区内交流を図ろうとの方針をガバナーとして進めたいと思っております。

具体的には、ガバナー公式訪問で単独でなく２クラブ合同での開催となったビジター側のクラブのすべての例会にビジター訪問しようと思っています。周年事業で参加するところや卓話を頼まれているところも含みますが、それでも３４クラブありますので、４月までかかりますが、地区内８５クラブの訪問を行い、私自身も地区内のクラブの現況をみて学びたいと考えています。
もちろんこれに限らず、ご要望があり日程調整がつけば、ビジター訪問したいと思っております。

ガバナーとして、１年の任期では大きなことはできませんが、私は一つ一つのクラブが、あなたの街で、しっかりとしたロータリーの奉仕の理念を理解し、実践するクラブであってほしいと願っています。

確かに、国際交流やロータリーファミリーとの親交を深めることも大切でしょう。
しかしその前にまず自クラブをしっかりまとめ、奉仕の理念を実践する風土を作って頂きたいと思っています。

あと半年、会員皆様のご理解とご協力を頂きながら、地区内のクラブがそれぞれに輝くことが出来るように、ガバナーとして皆様と情報共有してゆきたいと思っております。
本年もよろしくお願い申し上げます。

国際ロータリー第2760地区　2018-19年度ガバナー
豊橋ロータリークラブ所属

地区ホームページはこちら

ガバナーズウエブサイトはこちら

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

2019年は改元や消費税増税などの大きな転機となり得る出来事がある一方で、G20やラグビーワールドカップが開催され日本が活気づきます。この地区に関しては、県内総生産で愛知県は大阪府を抜き東京都に次ぐ２位の座につきました。さらに、リニア開業を見据えた動きは今後加速し、この地に歴史的チャンスが到来することでしょう。

第2760地区に目を向けると、村井總一郎ガバナーが「あなたの街でロータリーを！あなたの街からロータリーを！」の地区活動方針のもとに精力的に活動された結果、会員数が4900人を超え5000人に到達するのは初夢ならぬ夢ではない所まできました。5000人の会員数はインスピレーションそのものです。

来年2020年には日本のロータリーが100周年を迎えます。新世紀の日本のロータリーが進むべき方向性は、ロータリーの５つの中核的価値を高め、持続可能な組織の強化に努め、奉仕を実践し続けることです。

私は村井總一郎ガバナーの熱意ある妙妙たる地区運営に敬意を表するとともに学び、ガバナー就任に向け国際協議会等で研鑽に励み、地区の持続的発展のために鋭意努力していきたいと思います。当地区の皆様にとって、充実したロータリーライフとなりますことを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

ガバナーエレクト
伊藤 靖祐（江南RC）

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族おそろいで新しい年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、一昨年ガバナーノミニーのご指名を受けてから、早くも一年余りが経ちました。「当初１年間は何もないよ」という先輩ガバナーのお話でしたが、スケジュールが早まっているようで、地区委員会に加え、昨年７月にはガバナー会、８月末には第２ゾーン戦略計画推進セミナー、11月にはロータリー研究会への参加など、次から次へと委員会、研修などがあり、頭の中にギュギュっとロータリー知識が詰め込まれてゆくのを感じております。

近年はアベノミクスの影響かどうか、第2760地区は会員数も増大に転じ、すでに東京第2750地区を抜いて国内一番、5000人の大台まであと少しと迫っています。また、当地区でのロータリー活動も地区補助金、グローバル補助金などの活用が進み、規模の大きなものも増えてきました。さらに、今年はラグビー・ワールドカップ、来年は東京オリンピック、そして2025年には大阪万博も決定し、日本全体に高揚感が広がっている折、ロータリークラブが今後どのような方向に向かうのか、しっかり見据えながら、この一年を過ごし、次年度2020年に備えたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

ガバナーノミニー

岡部 勢（名古屋北RC）

ろーたりーぱっちわーく その13
村井ガバナー的こころ

職業奉仕について考える

１月は職業奉仕月間である。ロータリーの友の１月号にも『今に生きる職業奉仕』と特集が組んである。今回はこの職業奉仕について考えてみる。

職業奉仕については、まずその言葉の意味が難解であるという方や、漠然と自分の行っている職業（事業）で奉仕することと思っている方が多いと感じている。

その他の社会奉仕や国際奉仕、青少年奉仕、クラブ奉仕は『社会に対して奉仕すること』のように、間に『対して』と入れると説明がつくのであるが、職業に対して奉仕するとしたら意味が通じなくなる。そこで職業を通じて奉仕すると一般に言われているが、これでは職業が手段になり、職業を通じて社会に奉仕することでも、青少年に奉仕することでも良くなってしまう。このあたりが難解にしている要因の一つであろう。

職業は自分に対して利益を求めることであり、奉仕は相手に対して行うことであるから、方向性の違うものを重ね合わせた言葉が職業奉仕である。これは相手に良質な奉仕をすれば、それにより自分も良くなる（利益をもたらす）ということだとの解釈がされている。

アーサー・フレディック・シェルドンの『He Profit Most Who Serves Best』（２０１０年規定審議会でHeはOneに変更）という言葉の説明がこのことである。

私は自身の冊子「超入門　職業奉仕の入り口」で『奉仕の心をもってあなたの職業を営みましょう』と解説をしてみた。

事業の経営理念として相手（顧客・消費者）のことを考えた商品・サービスを提供し、企業として倫理観を向上させることをしなさい、儲かるから損をしないようにと、悪いこととは知っていながら、商売の道から逸脱し法を犯す判断をしないこと、これらのことを身に付けるのが職業奉仕であると解釈もできる。

私はこの考えが事業経営者に受け入れられ、日本でロータリーが発展していった大きな原動力になったと思う。ロータリアンになることで、他の奉仕団体にはない、サービスや倫理の概念が身に付き信用度が上がるという、崇高な経営を目指す人の集いの要素があったのは確かである。

このことにより、ロータリーは職業奉仕で各自の事業で高度な倫理性を持った奉仕をすれば良いのであって、団体で行う社会奉仕のようなことをしなくても、それは良いのだと考えている会員が数少なくないことも現実である。
さらには、アイサーブを強調することで、ウィサーブの団体奉仕をしない言い訳と言われても仕方ない、Eat＆Run会員と呼ばれる例会に出席しおしゃべりして帰るだけの会員もまだ多くいると聞くことがある。

そうでなくても、『職業奉仕こそがロータリーの根幹、金看板である』と他の奉仕よりも上位概念と位置づけした卓話を聞くことが多いので、専ら自らの事業としての奉仕のみで事足りている、と思っている会員が多いのが現状であろう。
職業奉仕が無ければロータリーが他の奉仕団体と変わりがない、とか職業奉仕は他の奉仕に比べ上位概念であるとの思想が日本には根付いている。
私は、このことのとらえ方を全否定はしない、と言うより個人的には肯定している。

しかし、世界のロータリアンはどの奉仕も大切にし、特に上位概念を持たず区別をしなくなってきている。現実には奉仕を受ける側からすれば、奉仕の種類など関係ないことであろう。奉仕する側の理屈と言ってしまえば身もふたもない話だが。

例えば、パン屋さんが良質なパンを焼いて商売するのが職業奉仕、パンを焼いて施設に配るのは社会奉仕、パンを焼いてパンの焼き方や作り方を子供たちに指導するのは青少年奉仕、と解釈されると思う。
しかし、パンを焼いていることには違いはない、それをこちらの理屈というか、都合で区別しているようにも考えられる。
事実、ＲＩ理事会では社会奉仕と職業奉仕と青少年奉仕を同一の奉仕とグループ化することになってきている。

これらのことを踏まえて私は次のように職業奉仕を考えてはと思う。
ロータリーの奉仕の理念とはどのような奉仕活動か、それは職業奉仕を上位概念とするものかということと、商品・サービスを通じて顧客に奉仕し、自らの職業倫理の向上を図るという事業を営む上での考え方としての職業奉仕、とのふたつである。
分けては考えにくい問題ではあるのだが、いかがであろうか。

RID2760 2018-19 ガバナー 村 井 總 一 郎

らーすたりーぱっちわーく その14

村井ガバナー的こころ

例会運営について考える

ロータリークラブに入会するときに、週に１回開催される例会には、必ず出席するようにと言われた。止むを得ず欠席する時は、前後１週間以内（当時のルール）に別のクラブの例会に出席することも併せ言われた。他クラブの例会に出ることをメークアップと言うとも知らされた。

推薦者と共に出席した初例会は、緊張してあまり覚えていないが、会員の方が青や赤のタスキをかけて例会の始まる前から準備に動かれていた。２回目の出席の時からは自分もタスキをかけて入り口で会員のお迎えをする仕事が回ってきた。当時は家族会や懇親会の会費の振り込みには、入り口で領収書を配っていた。親睦委員長から「〇〇さん来てるからこの領収書を本人に渡してくれ」と言われたが、記載してあるのは会社名なので顔や名前が分からない。そこで委員長さんから「向こうの右端のテーブルの背中向けているグレーの上着の人」とか、「真ん中で眼鏡かけてお話ししている人」とか、どこに座られているかを教えていただいた。

これが結構役にたって、この仕事でメンバーの顔と氏名と会社名をあっという間に覚えていった。しかし、相手は私のことをすぐには覚えてくれてはいなかったのだが。

当時入会５年以内は主に親睦委員会とクラブ会報委員会に配属で、３年後くらいには委員長か副委員長が回ってきた。したがって入会後５年くらいは、ほぼ毎回ホームクラブの例会に出ていたと思う。

会員として活動していると、他クラブからメークアップ（ＭＵ）に来られる方を見かけることや、例会変更の時のサインＭＵの受付のお手伝いをする時に、ＭＵについて先輩から色々な話を伺えた。サインＭＵよりもちゃんと例会に出なさい、とかＭＵは欠席しなくてはいけなくなったならば、早めにやりなさい、欠席してからの補填よりも前もってＭＵしておいた方が良いよ、あとでやると借金を返すみたいだからとも言われた。また、他クラブの例会に出るとうちのクラブの良さがわかるよ、と言われたことが今も頭に残っている。

初めてＭＵで他クラブに行ったのは、いつ頃だったか定かでないが、勝手が違うので先にニコニコを支払いに行ってしまい、ビジターフィの集金の係の人が追いかけてきたことを覚えている。あやうく只食いするところであった。

例会場の席は以前からの知人の隣に指定されていたが、その方が例会開始寸前まで来なくて、向かい側から初対面の初老の方が色々と話かけてくれた。これがロータリーの思いやりなんだと気づかず、ただ開始時間まで話し相手をしていた自分が今となっては恥ずかしい。

点鐘と共に例会が始まったがすべてが新鮮と言うか、驚きと言うか、ロータリーのことが分かってないなりに色々と感じたことは確かだった。
これらの思い出は、例会に毎週出ることでクラブに早く馴染んだ方がロータリーは楽しいですよ、と特に新会員に伝えたい。

さらに本年度ガバナーとして、皆さんに他クラブに出かけて、そのクラブと自クラブの良さを感じて欲しい、とお願いしてきた原風景はここにあるのだ、ということを分かって頂きたい。

例会の運営方法に手本となるものはないであろうが、例会の場としては、思いやりの心のあふれる場であるべきと思う。会員同士が例会場で顔と顔を合わせて色々と話をする中で、発想の交換を行い、倫理性の向上を図り奉仕を通じて平和な社会を目指すことが例会の在り方だと思う。

そのためには、常に明るく楽しい例会の雰囲気を醸し出すことに努めるべきであろう。
せっかく例会に来た会員が食事をして卓話を聞くだけであまり話さず、来訪者へも話しかけずに過ごすことが無いようにと努力していくべきであろう。

また、楽しい例会と言う言葉を勘違いして、馴れ合いで一部の人がふざけ合っているようなことはしていないだろうか。その典型は私語であろう。私語の多い例会運営を改善しようとしないクラブは、仲間内だけで喜んでいるだけで、他者への思いやりを持つクラブとは私は思っていない。例会場で笑いはあった方が良い、しかし例会中は私語をしないことが大切である。

RID2760 2018-19 ガバナー村 井 總 一 郎

新着情報をホームページ(HP)で公開しています

**各種お知らせをはじめ定期配信コンテンツは、ガバナー月信発行に合わせ
ＨＰにて更新します。各バックナンバーも閲覧しやすくなりました。**

https://www.rotary2760.org/g18-19/
▼コンテンツタイトルをクリックするとリンク先PDFを開きます▼

定期配信

■ガバナー月信サイト
村井ガバナーのコンテンツやブログを掲載
メニュー>ガバナーズウエブサイト(各ページへ)

■ハイライトよねやま
メニュー>月次報告（PDF）
vol.225　2018/12/13発行

■コーディネーターNEWS
メニュー>月次報告（PDF）
2018年12月号　2018/12発行

■財団室ニュース
メニュー>月次報告（PDF）
2019年１月号　2018/12/27発行

■文庫通信だより
メニュー>月次報告（PDF）
vol.374　2018/12発行

ロータリー文庫より
これまで文庫通信につきまして、毎月25日発行しておりましたが、より厳選し、今後は隔月の「偶数月」に発行することとなりました。
次号375号の発行・掲載は、2月25日(月信３月号)となります。

■風の便り
メニュー>月次報告（PDF）
vol.4（通刊52号）　2018/12/５発行

■会員数と出席率
メニュー>月次報告（PDF）
※2018年12月度分は2019年１月中旬以降の配信となります。

お知らせ・お願い

■ガバナー候補推薦について
今年度の推薦は終了しました。

■各種賞・表彰の概要について
メニュー>お知らせ

■立法案提出のお願い
今年の提出期限は終了しました。

■WFFレポート
メニュー>月次報告
WFF参加報告書をHPに公開しています。ご覧下さい。

■地区大会レポート
メニュー>月次報告
地区大会参加報告書をHPに公開しています。ご覧下さい。

■青少年交換のお願い
今年の募集は終了しました。ご協力有り難う御座いました。

活動報告／その他更新記事

「職業奉仕月間」によせて
職業奉仕委員長　鋤柄　喜彦

■分区内交流だより
本年度は、他クラブ例会への積極的参加を推進しています。

■地区委員会報告
20委員会全ての活動情報を随時更新しています。

ガバナーやスタッフのブログも
ガバナーズウエブサイトで更新中！

最新情報の取得はメールマガジンが便利です！
最新記事リストはメールマガジンでも配信します。リストをクリックするだけで
閲覧したいページをブラウザで展開します。是非、活用ください。

登録は
こちら